
LactPren(らくとぷれん)

～農業体験を通じた地域連携と環境教育～

第1章 プロジェクトの概要

1. プロジェクトの名称、目的

LactPrenとは、「地域の活性化と環境保全」のフランス語訳である、L’activation et la Protection de l’environnement の下線部分(L’act+Pr+en)を用いた造語である。

本プロジェクトの目的は次の通りである。

地域活性化に、教員養成系大学の学生がどのように貢献できるかを探るため、学内外の各種団体と共同して活動を行う。
また、教員養成系の大学として農業や環境について子どもたちにどのようにして伝えるべきかを考える。

昨今の学校教育では地域との連携が重要であると指摘されている。そのため、今回は、教職を強く希望する我々自身が農業体験を通して、「地域とどのように関わっていけば良いのか、また子どもに何を伝えていくべきか」ということについて考えたい。

本プロジェクトは、以下に挙げる活動を展開した。

◇地域活性化と体験学習

～京都市北区小野郷にて～

地域の活性化を模索している京都・北山の小野郷において、農業体験活動を行い同時に地域活性化について検討する。

◇大岩山清掃活動

平成 22 年より実施してきた不法投棄の問題を抱える深草の里山である大岩山の環境整備活動を続ける。

2. 代表者および構成員

・代表者

森川 孝 社会領域専攻 2 回生

・構成員

石掛 元気 社会領域専攻 4 回生

由良 茉季子 社会領域専攻 4 回生

石野 沙織 社会領域専攻 3 回生

小林 未沙 社会領域専攻 3 回生

坂根 まさら 社会領域専攻 3 回生

西尾 愛美 社会領域専攻 3 回生

川口 由太 国語領域専攻 2 回生

松村 祥子 教育 学専攻 2 回生

東瀬 莉穂 社会領域専攻 1 回生

岸本 大樹 社会領域専攻 1 回生

小山 歩 社会領域専攻 1 回生

末永 花梨 社会領域専攻 1 回生

高下 真由 社会領域専攻 1 回生

中牟田 奈歩 社会領域専攻 1 回生

藤井 祐里 社会領域専攻 1 回生

水上 咲希 社会領域専攻 1 回生

向井 裕貴 社会領域専攻 1 回生

森山 祐之朗 社会領域専攻 1 回生

山際 蓮 社会領域専攻 1 回生

若杉 麻未 社会領域専攻 1 回生

3. 助言教員

武田 一郎先生 (社会科学科)

石川 誠先生 (社会科学科)

4. 本プロジェクトへの協力者・団体など

・団体

NPO 法人 京都北山悠悠自然塾

・協力者

小仲 一輝 本学大学院
社会科教育専修

大上 拓也 本学大学院
社会科教育専修

寺下 勲 本学大学院
社会科教育専修

湯 純 本学大学院
社会科教育専修

伊藤 大二郎 社会領域専攻 3 回生

木田 祐介 社会領域専攻 3 回生

嶋崎 優太 社会領域専攻 3 回生

山田 義和 社会領域専攻 3 回生

板谷 寿美 社会領域専攻 2 回生

第 2 章 内容と実施経過

◇地域活性化と体験学習

～京都市北区小野郷にて～

【概要】

京都市北区に北山杉で有名な小野郷地域がある。京都市の中心部から一時間程度の距離でありながら、清流や青々とした森林、澄んだ空気という魅力的な環境をもつ地域である。

小野郷は現在、住民の高齢化が深刻な問題となっている。そのため、耕されなくなった田(休耕田)をどう活用するか、また地域全体を活性化するためにはどうしたらよいか、ということについて行政(京都市)や地域住民、NPO 等が各種取り組みを行っている。

平成 22 年度より LactPren が「e-project @kyokyo」に応募し農業体験を通して地域の活性化について考える活動を行ってきた。今年度は小野郷地域で農業体験を通じた地域連携と、環境教育に目を向けた活動を行った。

小野郷地域で活動する NPO 法人 京都北山悠悠自然塾は休耕田を一般の方々に向けて

農業体験を企画、実施している。

【実施経過】

① 体験教室

4/29・5/2：田植え

5/20：さつま芋畑の整備

7/22：体験教室「間伐」

北山杉の間伐を行った。間伐の大切さを子どもたちにどのように教えていくか、実際に北山杉にふれながら学んだ。



【伐採した杉の皮をむく】

9/2：稲刈り

10/7・14・21・28：朝市・芋ほり体験教室

11/4・18・25：朝市への参加

地域活性化への取り組みとして NPO が行っている朝市で、野菜の販売を体験した。



②小野郷における合宿研修

8/17-19：小野郷合宿研修

地域の魅力を生かした体験学習と、地域活性化への方法を探るため小野郷での合宿研修を行った。

NPO との親睦を深めながらも、藤陵祭で販売する大根や白菜の種を蒔いた。



【トラクターによる畑づくり(8月)】



【北山杉を用いた箸づくり体験(8月)】



【全体の集合写真(合宿3日目)】

③藤陵祭関連

5/5：田植え

藤陵祭で小野郷をPRするために、販売する予定の米の田植えを行った。

手植え、機械の両方で田植えを行った。

9/13：稲刈り

一粒も残すことのないように、大地の実りに感謝しながら稲刈りを行った。

今年は田に鹿が入り込んだために倒れている稲が多かったが、45キロの米を収穫することができた。



【コンバインの体験(9月)】

11/7(水)：大根収穫

藤陵祭で販売するため、8月の合宿で種をまいた大根の収穫を行った。

11/8(木)：前日準備

11/9(金)～11/11(日)：藤陵祭

今年の藤陵祭では収穫した大根と白菜、米と大根煮を販売したほか、小野郷の北山杉を用いた工作教室を開き、小野郷と LactPren の活動を紹介したパネルを作成しパンフレットを配布し、藤陵祭の参加者から好評を得た。

大根煮は3日間で200食販売する予定だったが、初日だけで164食も販売することができ3日間で合計498食販売することができた。



【好評だった小野郷の大根(藤陵祭 2 日目)】

◇大岩山清掃活動

【概要】

大岩山は伏見区と山科区にまたがる山である。以前から産業廃棄物をはじめとする不法投棄が問題となっていたが、2008 年度に行政(伏見区役所深草支所)、NPO、大学生、地域住民らが協力し、100t ものゴミを回収した。

2009 年度には、行政、NPO、地域住民らと、本学の体育会諸クラブとが協力し、山頂付近の雑木伐採などを行い、展望台を設置した。

2010 年度には LactPren と本学体育会、行政、NPO、地域住民らが協力し、展望台までの遊歩道を完成させた。

【実施経過】

4/25：大岩山参道付近の清掃活動

本学体育会のアメリカンフットボール部、社会領域専攻 1 回生の協力を得ながら、枯竹の除去などの整備を行った。

第 3 章 結果や成果

◇地域活性化と体験学習

～京都市北区小野郷にて～

今年度、小野郷での活動は 4 月 29 日の田植え、北山杉の間伐と夏合宿、稲刈りと朝市である。すべての活動において NPO の方々と共に作業をし、地域の活性化についてどのような取り組みが行えるかなど、意見を交換

することができた。

夏合宿では、畑に堆肥をまき、土を起こし畝を作り、大根の種をまいた。この活動で田植えや種まきをし、収穫をした米や大根を藤陵祭において販売した。また、この活動と小野郷を大学や地域の方々にも紹介することができた。

地域との関わりは学校によって差異がある。教職を強く希望する私たちにとって地域とともに活動することは、学校教育において地域との連携が重要であると言われていることをみても、意義のあることである。

地域の方々と繋がりをもつための活動が農業であり、農業体験を通して自然体験をすることは、教員となった際に子どもたちにも自分の体験を語りかけることができる。

その農業体験を通して地域の方々と交流する中で、地域が学校や教員に対して望んでいること、小野郷における小中学校と地域と一緒にやって行った取り組みについて話を聞くことで、地域とどのように関わり働きかければ子どものため、地域のためになるか考えることができた。

また、小野郷は平成 21 年に小中学校が休校になり校舎・校庭の活用方法が住民の間で問題となっているが、その活用方法に関しても他の地域を参考にしながら意見を交わし、地域の中で占める学校の役割の大きさを感じることができた。



【北山杉を用いた木工教室(藤陵祭 2 日目)】

第4章 まとめと反省、今後の展望

1. まとめ

小野郷での活動から、街の中や学内にはない空気、環境など感じる事ができ、美しい自然をもつ小野郷に愛着を持つようになった。また、NPO が企画した農業等の自然体験教室では私たちと年齢や職業などが異なる、多くの方々と交流することができ良い機会を得た。

今年度は一昨年に比べ小野郷で活動する機会が多く NPO と交流を交えながら地域の活性化について意見を交換し、NPO が行う体験教室に参加した。

大岩山の清掃活動に関しても本学体育会のアメリカンフットボール部、社会領域専攻 1 回生など、私たちだけでなく本学の多くの学生の参加を得ることができた。本学周辺の地域だけでなく、小野郷地域に出かけて活動することで、地域の取り組みや、各地域の良さを感じることができた。

さらに、7 月に体験した間伐から、山林を視点とする社会科の授業構想をまとめた。

2. 反省

今年度は LactPren に 21 名が参加した。特に 1 回生が構成員の大半をしめたことは、次年度以降の活動に明るい見通しができた。しかし、小野郷の PR をしようとした際に準備不足等のため、PR 内容を一部変更したことや、人数は増えたもののマネジメントが上手くできなかったことが残念である。

さらに、大岩山整備活動に関しては、4 月に LactPren 主催で行ったのみであり、他団体の大岩山を対象とした活動への参加もできなかった。これらが反省点である。

3. 今後の展望

小野郷における地域活性化と体験学習については引き続き、NPO 法人 京都北山悠悠自然塾と連携を行い、現地にて展開される様々な活動に参加する。その中で休校となった小野郷小中学校の利用方法や、地域の特色を活かした体験学習の在り方などについて考えていきたい。

また、今回は身体を動かす活動が中心だったが、活動に付け加え、知識を深める内容も来年度から増やしていかなければならない。小野郷の歴史や文化などを学び、構成員がテーマを決めて小野郷に関する発表を行えるよう検討をしている。

私たちが体験した間伐から 1 時間の授業を構想したが、農業体験に関しても授業構想を検討して行きたいと考えている。

私たちの体験をもとに上記の諸課題をまとめ、地域の方や子どもたちとふれあうことができる場に出かけ、私たちの活動の紹介をしていきたい。

【資料】

第5学年 社会科学習指導案(略案)

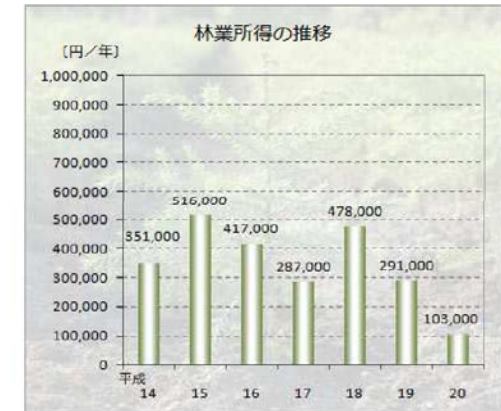
1. 単元名 「森林の環境維持と私たちの暮らし」
2. 単元のねらい
 - (1) 自分たちの生活と森林の働きや、森林資源との関係に関心を持ち、意欲的に調べようとする。 【関心・意欲・態度】
 - (2) 森林が持つ多面的機能や、森林資源の育成に従事している人々の工夫や努力について考える。 【思考・判断・表現】
 - (3) 写真や表、グラフなど資料をもとに、日本の森林の現状をつかむことができる。 【技能】
 - (4) 森林は温暖化や自然災害の防止、水資源の涵養、生活環境の保全等、自分たちの生活に関わる多面的な機能を持つことを理解する。 【知識・理解】
3. 指導計画(全)
 - 第1時 林業の工程について知り、森林と私たちの関係について気づく。
 - 第2時 森林の働きについて理解し、どのように利用されているか考える。国土の保全や水資源の涵養について理解する。
 - 第3時 北山杉の間伐を体験し、林業に従事する人々の工夫や努力を理解する。
 - 第4時 前時の体験から間伐の必要性に気づき、林業従事者が抱える課題について考える(本時)
 - 第5時 これからの林業のあり方や私たちと森林の関わり方について考える。
4. 本時の指導
 - (1) 本時のめあて
「どんな人が林業をしているのだろうか」
 - (2) 本時のねらい
 - ・間伐体験から気づいたことを共有し、間伐の必要性を理解する。
 - ・資料から人口の減少や、杉の立木価格を読み取り、林業従事者が抱える問題について考える。
 - (3) 教材観 略
 - (4) 児童観 略
 - (5) 指導観 略

(6) 本時の流れ	
○学習活動	指導上の留意点
導入	1. 間伐体験から、分かったこと、気づいたことを発表する。
展開	2. 森林の公益的機能の低下が私たちの生活に、どのように関連しているのかを考える <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> どのような人々が林業に従事していましたか。 </div>
	3. 林業従業者数、高齢者比率の推移から、林業従業者が高齢化していることを気づく。 林業従業者数と高齢者比率の推移のグラフを見せる(資料①)。
	4. 杉1本の立木価格の資料を示す。杉1本が684円で取引されていることを紹介し、適正価格かどうか班で思ったことを述べ合う。 林業所得の推移のグラフを見せる。そこから、杉1本の立木価格を紹介する(資料②)。
	5. 採算が合わないことから、若い人が林業に従事せず、林業従事者の高齢化に起因していることを理解する。
まとめ	6. 間伐することで、森林の環境を維持し、森林の公益機能を維持することにつながる。 7. 次時に向けて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> どうしたら、若者が戻ってくるか、みんなが働くとなれば、どうなれば働きますか。 </div>



資料①
【参考資料】

「林業従業者数と高齢化・緑の雇用」(2013年1月10日閲覧)
<http://www.shinrin-ringyou.com/ringyou/koureika.php>



資料②
【参考資料】

「林業従業者数と高齢化・緑の雇用」(2013年1月10日閲覧)
<http://www.shinrin-ringyou.com/ringyou/koureika.php>